



パワード・スピーカー



取扱説明書
Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 本体を水の近くで使用しないでください。
3. 本体を水または液体の中に入れてください。
4. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
5. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
6. 熱源（ラジエーター、ストーブ、アンプ）などの近くに設置しないでください。
7. 安全のため、アース付きプラグを使用してください。プラグのブレードは一方が幅広になっています。アース付きプラグには、2つのブレードとアースピン（グラウンド）が付いています。幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。プラグが上手く挿さらない場合、技術者にコンセントの差し込み口を確認して貰う事をお勧めします。
8. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
9. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
10. 製品受領時に外部に損傷（電源コード等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージが有った場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れが有ります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合が有ります。
11. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
12. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
13. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
14. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

本製品は最新の電子技術と素材を使用しているため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要があります。機材へのダメージ、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理はJBLの代理店にて行ってください。

注意！：この製品はFCC規則第15部に準拠しており、Class B digital deviceに認定されています。

本製品を使用すると高周波を発信する場合があります。設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機が接続されているものとは別の回路のコンセントに機器を接続する
- 販売店、またはテレビ・ラジオの技術者に相談する

目次

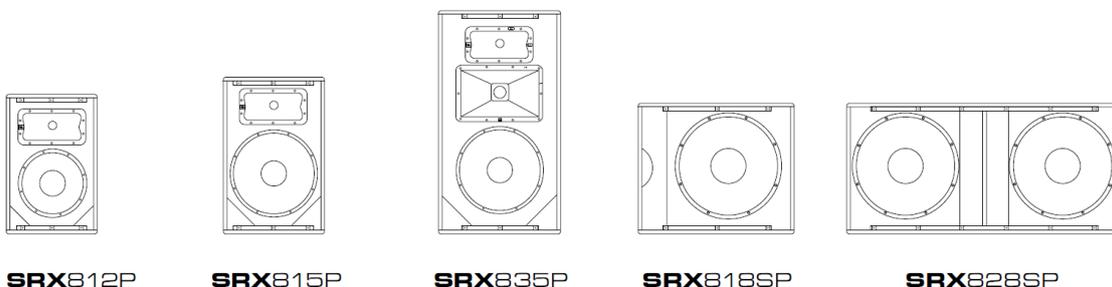
安全上の重要事項.....	2
メンテナンスと修理.....	3
はじめに.....	5
SRX800 シリーズ概要	5
主な特長.....	5
仕様.....	9
寸法図.....	11
セットアップガイド.....	13
設置例.....	13
各部の名称.....	14
LCD ディスプレイ操作	18
セットアップ.....	22
プリセット.....	23
高性能 DSP.....	25
ネットワーク.....	26
Audio Architect.....	27
SRX Connect アプリケーション	28
故障かな？と思ったら.....	29
ブロック・ダイアグラム.....	32

はじめに

この度は JBL SRX800 シリーズ・パワード・スピーカーをご購入いただき、誠にありがとうございます。SRX800 シリーズは先端テクノロジーを使用して開発された、様々な用途において最高のサウンドを出力することができるパワード・スピーカーです。

本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

SRX800 シリーズ概要



SRX800 シリーズは JBL プロフェッショナルが提供する次世代高性能パワードスピーカーです。フルレンジスピーカー3機種とサブウーファー2機種から構成され、このクラスでは最高のシステムを作るための高度な機能を多数持っています。革新的な技術とスピーカー開発における JBL の長い歴史に基づき、高性能、総合的なコントロール、伝統の JBL サウンドなどの厳しい要求に応えます。

主な特長

SRX800 シリーズはツアー会場でのポールマウントから会議場でのサスペンションまで、幅広い用途に使用できるように開発されたパワード・スピーカーです。

- 特に高い耐久性、信頼性、可搬性を求めるユーザーの要求に合わせて設計されています。エンクロージャーには DuraFlex™ 仕上げ 18mm 合板を使用し、耐久性を持たせています。
- 持ち運びがしやすいように、ハンドルは人間工学に基づいて設計されています。
- サスペンション用 M10 サスペンションポイント、フロアモニター用ゴム足、ポールマウント用ソケット、スタック用ソケットが装備されています。

ポールマウント



M10 サスペンション



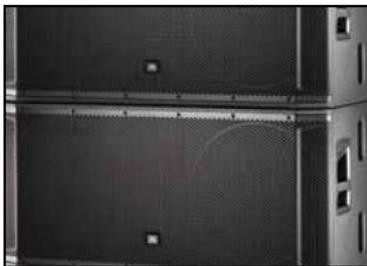
ハンドル



サイドハンドル



スタック対応



フロアモニター対応



妥協のない高性能コンポーネントを使用

新開発のトランスデューサーから 14 ゲージ・スチールグリルまで、使用されているコンポーネントは最適な性能を得るために専用設計されています。専用の Crown アンプと Harman の最新テクノロジーを使用した、ユーザー設定可能な多機能 DSP を搭載しています。

2432 HF ドライバー

JBL 2432H は 3 インチ・ボイスコイル、ネオジウムマグネット採用により軽量化を実現。大型ボイスコイルとダイヤフラムは、歪みの少ないハイパワー・サウンドを出力。高い位相コヒーレントはスムーズでクリスタルのようにクリアな高域を生み出します。



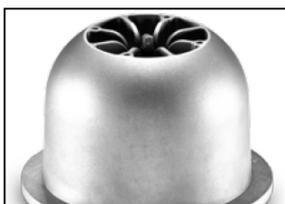
ウーファー

JBLの特許取得済み Differential Drive Technology フェライト・ドライバーは軽量化のためフェライトの量を減らした 3 インチ・ボイスコイルを採用。放熱効果を高めて出力効率を上げたパワーアンプにより、歪みの少ない拡張された低域レスポンスが得られます。



中域ドライバー

SRX835 の中域ドライバーは、VTX20 アレイシステムで使用されている中域トランスデューサーから生まれました。外側のアルミ・ダイキャスト・フレームは構造体、音響空洞、ヒートシンクとして使われていて、スピーカーキャビネット空間の最適化とシステム性能向上のために使用されています。



特許取得済み Waveguides

高域ドライバーには JBL の特許取得済み Progressive Transition Waveguides が使用され、一定のビーム幅、直進性、低歪み、High-Q ピークが無いスムーズな周波数特性が得られます。カバレッジ角は広く、全高調波歪みは最小化され、歪むことなくリアルな音質を実現します。



HiQnet ネットワークコントロール

HiQnet ネットワークにより、SRX800 システム構成は非常に簡単です。自動化されたコントロール・インターフェースを使用して短時間で設定を完了することができます。本製品のイーサネット・コネクタに LAN ケーブルを接続し、コントロール・アプリケーションを

使用して機器をコントロールします。コントロールアプリケーションには Audio Architect、HiQnet Motion Control™、SRX Connect があります。



高性能 DSP

SRX800 シリーズは、ユーザー設定可能な 400mHz Sharc DSP を搭載しています。最大 2 秒まで設定可能なディレイ、シグナル・ジェネレーター、入力ミキシング、アンプモニタリング、50 個のユーザープリセットを搭載。さらに、96kHz FIR フィルター、LevelMax™ リミッターを搭載し、JBL の最上位システムである VERTEC と VTX ツアーシステムに使用できるように V5 JBL Tuning との互換性を保っています。



Crown DriveCore テクノロジー・アンプ

Crown 独自の Front-End DriveCore テクノロジーを使用し、このクラスでは最大の定格出力 2000W を誇ります。余裕のヘッドルーム、非常に低い歪み率、周波数領域全体を通して完璧な明瞭さを持っています。



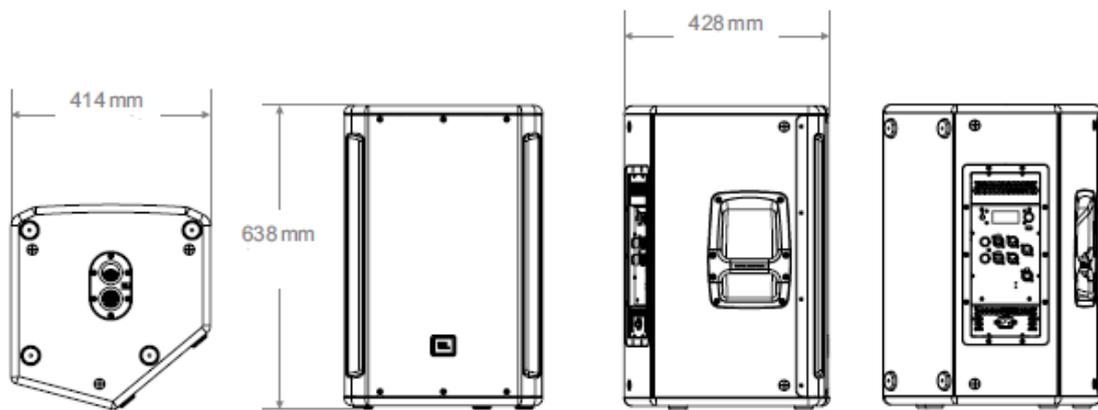
仕様

モデル	SRX812P	SRX815P	SRX835
構成	2way フルレンジ		3way フルレンジ
最大音圧レベル	136dB	137Hz	137Hz
周波数特性(-10dB)	40Hz - 21kHz	36Hz - 21kHz	33Hz - 21kHz
周波数特性(-3dB)	48Hz - 20kHz	36Hz - 21kHz	41Hz - 20kHz
パワー	ピーク出力:2000W 連続出力 1500W		
入力インピーダンス	40kΩ(バランス)、20kΩ(アンバランス)		
ライン入力ゲイン	21dB、最大入力レベル(20dB)		
民生機器入力ゲイン	33dB、最大入力レベル(8dB)		
マイク入力ゲイン	45dB、最大入力レベル(-4dBu)		
コネクター	XLR/フォン・コンボ入力×2 スルー出力(XLR)×2		
LED インジケーター	電源 LED(緑)、Network Link(緑)、Network Data(黄色)		
冷却	ファン冷却(可変スピード)		
電源	AC100V、50 - 60Hz		
消費電力(1/8Power)	85W		
LFドライバー	2272F 12 インチ(305mm)	2275F 15 インチ(381mm)	
MFドライバー			2107H 6.5 インチ(165mm)
HFドライバー	2432H 3 インチ(75mm)		
指向角度(水平×垂直)	60 度×40 度	90 度×50 度	60 度×40 度
クロスオーバー周波数	1.9kHz	3kHz	330Hz&2.4kHz
エンクロージャー材質	DuraFlex™ 仕上げ合板		
吊り/ ポールマウント フロアーモニター	M10 サスペンション・ポイント 36mm ポールソケット×2 対応		
ハンドル	上左右 3 カ所		左右 2 カ所
寸法(L×W×H)	429×415×638mm	478×458×691mm	476×544×984mm
質量	26.4kg	28.6kg	38.6kg

モデル	SRX818SP	SRX828SP
構成	サブウーファー	
最大音圧レベル	135dB	141dB
周波数特性(-10dB)	29Hz - 150kHz	
周波数特性(±3dB)	35Hz - 120kHz	
パワー	ピーク出力:1000W 連続出力 750W	ピーク出力:2000W(1000W×2)、 連続出力 1500W(750W×2)
入力インピーダンス	40kΩ(バランス)、20kΩ(アンバランス)	
コネクター	コンボ(XLR/フォン)入力×2 スルー出力(XLR)×1	
LED インジケーター	電源 LED(前後)、Bluetooth、EQ+、入力信号、リミッターLED	
冷却	自然冷却(ファン無し)	
電源	AC100V、50 - 60Hz	
消費電力(1/8Power)	85W	170W
LFドライバー	2279F 18 インチ(460mm)	2279F 18 インチ(460mm)×2
クロスオーバー周波数	80Hz	
エンクロージャー材質	DuraFlex™ 仕上げ合板	
ハンドル	左右 4 カ所	左右 8 カ所
寸法(L×W×H)	683×684×575mm	681×1205×574mm
質量	39.5kg	65.9kg

寸法図

SRX812P



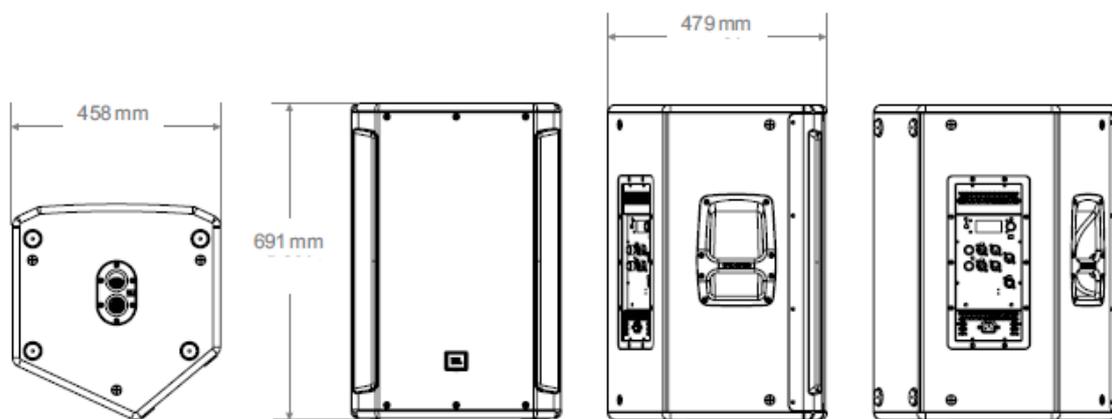
底面

前面

左側面

右側面

SRX815P



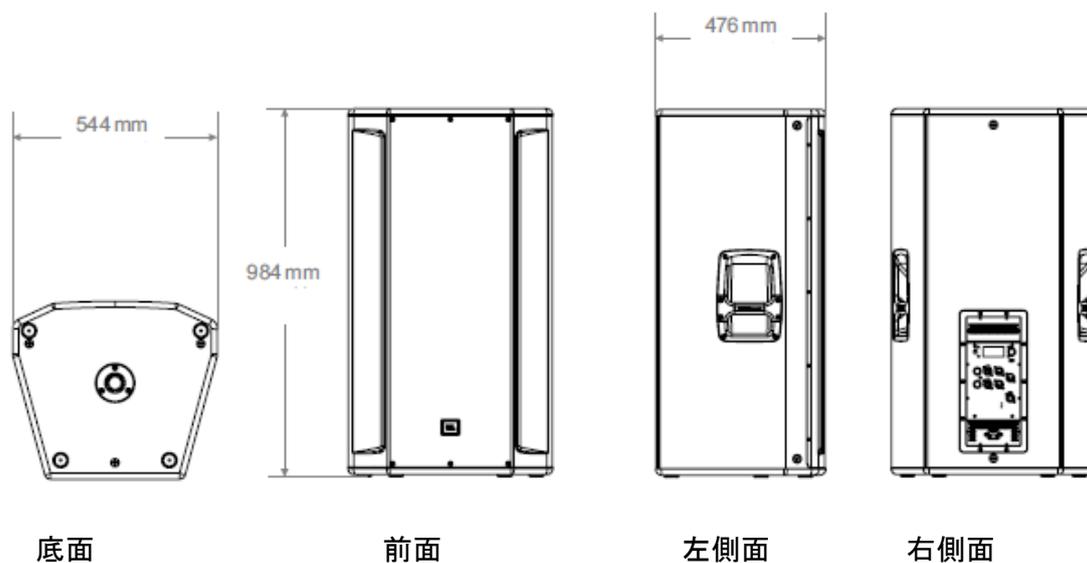
底面

前面

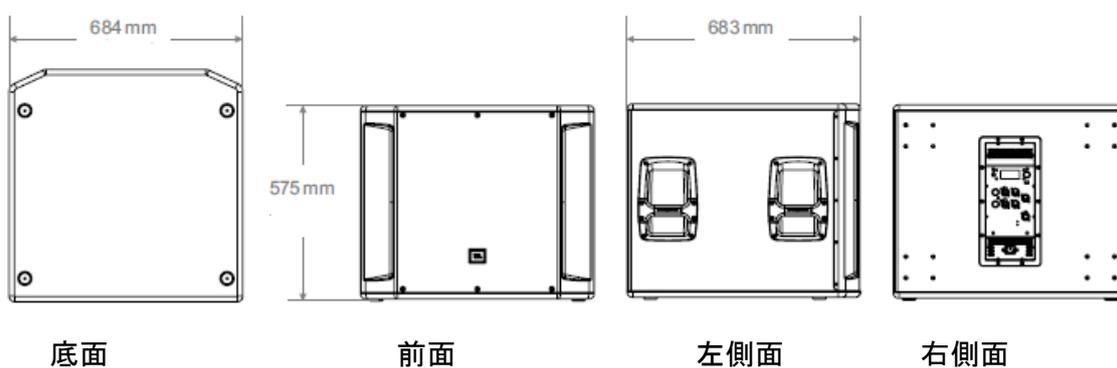
左側面

右側面

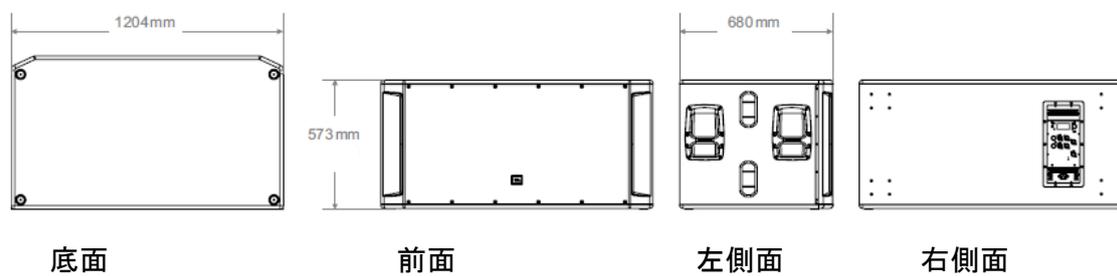
SRX835P



SRX818SP



SRX828SP



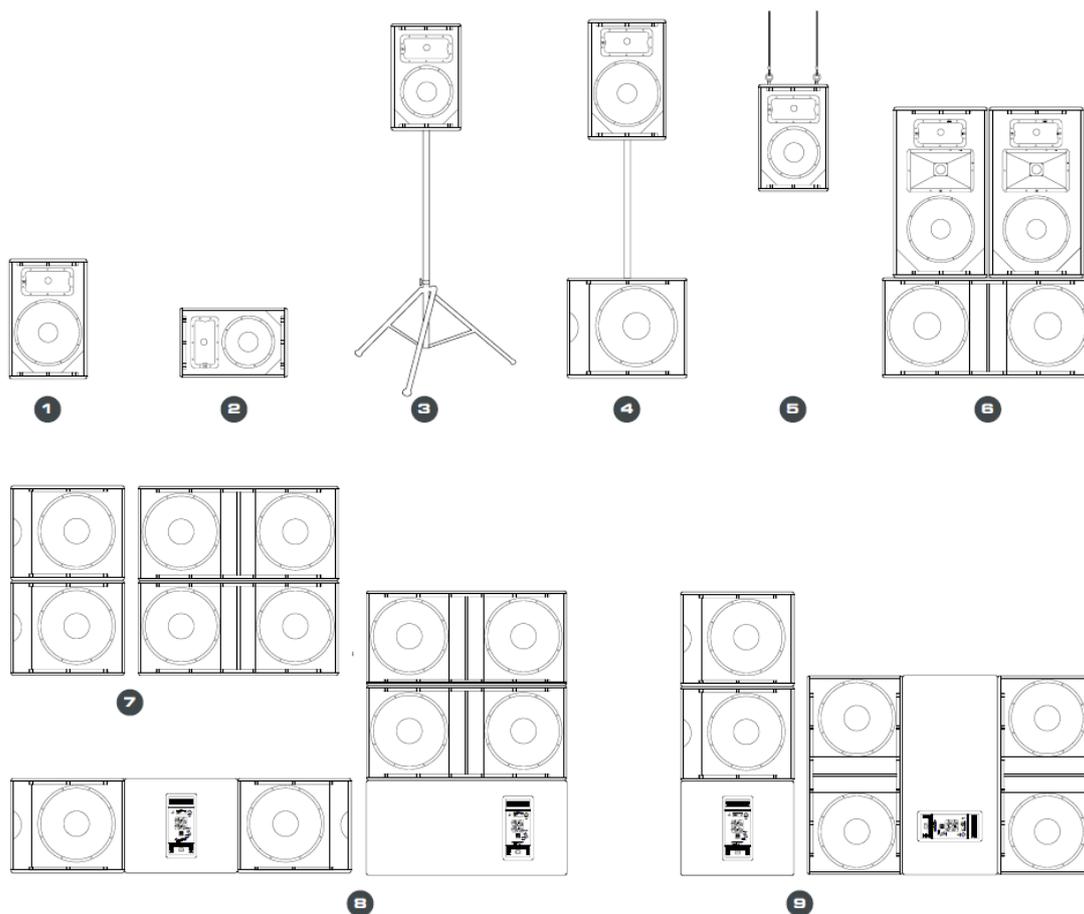
セットアップガイド

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

梱包には次のものが含まれています。

1. SRX800 スピーカー本体 x 1
2. IEC 電源ケーブル x 1
3. 製品マニュアル（日本語） x 1

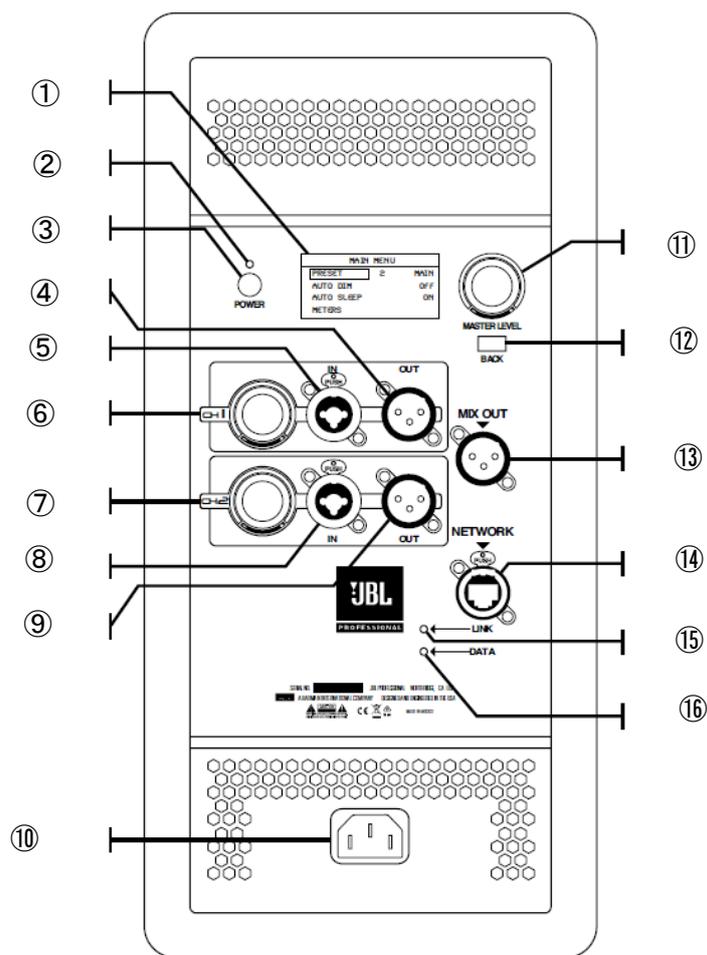
設置例



1. 床縦置き
2. フローモニター
3. ポールマウント
4. サブウーファー・マウント
5. 吊り下げ
6. サブウーファー+3Way スピーカー
7. サブウーファースタック
8. 指向性サブウーファー横置き
9. 指向性サブウーファースタック縦置き

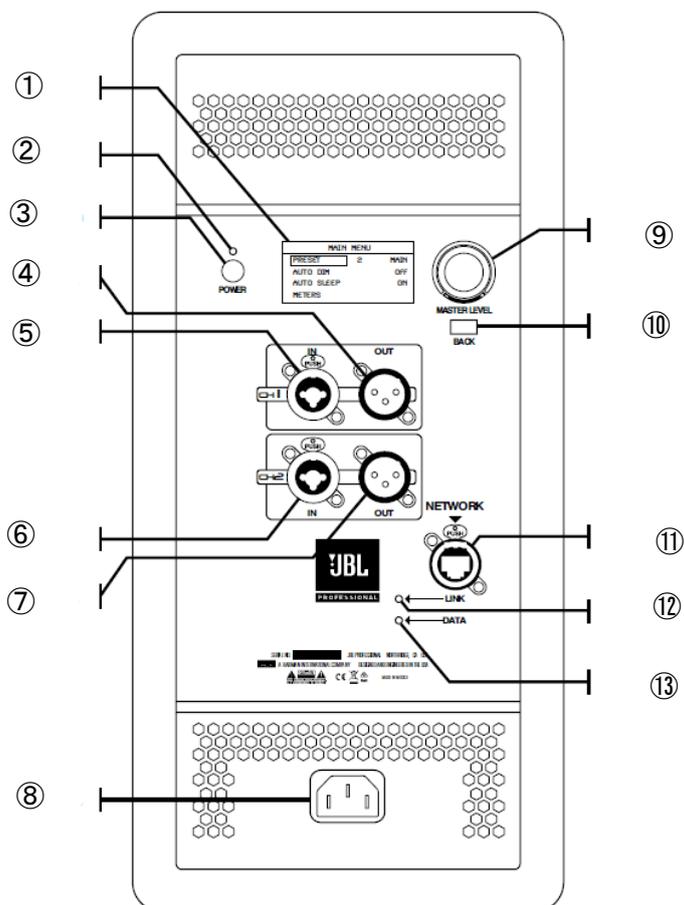
各部の名称

SRX812P、SRX815P、SRX835P 背面パネル



1. **LCD ディスプレイ**
オフラインの時にプリセットの変更や基本設定を行います。
2. **電源 LED (緑)**
電源が ON の時点灯します。
3. **POWER**
電源を ON にします。
4. **CH1 OUT**
CH1 スルー出力端子 (XLR) です。
5. **CH1 IN**
コンボ (XLR/フォン) バランス入力端子です。マイク、ミキサー、楽器などを接続できます。
6. **CH1 ゲインつまみ**
CH1 のゲインを調整します。
7. **CH2 ゲインつまみ**
CH2 のゲインを調整します。
8. **CH2 IN**
コンボ (XLR/フォン) バランス入力端子です。マイク、ミキサー、楽器などを接続できます。
9. **CH2 OUT**
CH2 スルー出力端子 (XLR) です。
10. **電源コネクタ**
電源ケーブルを接続します。
11. **MASTER LEVEL**
マスターボリュームを調整します。
12. **BACK**
LCD ディスプレイと連動して表示を 1 つ前に戻すボタンです。
13. **MIX OUT**
外部機器に信号を出力する端子 (XLR) です。CH1 と CH2 のミックスを出力します。
14. **NETWORK**
複数のスピーカーをネットワークに接続してコントロールする時に使用します。
15. **LINK**
スピーカーがネットワークに接続している時に点灯します。
16. **DATA**
ネットワークのデータを送受信されている時点灯します。

SRX828SP、SRX818SP 背面パネル



1. LCD ディスプレイ
オフラインの時にプリセットの変更や基本設定を行います。
2. 電源 LED (緑)
電源が ON の時点灯します。
3. POWER
電源を ON にします。
4. CH1 OUT
CH1 スルー出力端子 (XLR) です。
5. CH1 IN
コンボ (XLR/フォン) バランス入力端子です。マイク、ミキサー、電子楽器などを接続できます。

6. **CH2 IN**
コンボ (XLR/フォン) バランス入力端子です。マイク、ミキサー、楽器などを接続できます。
7. **CH2 OUT**
CH2 スルー出力端子 (XLR) です。
8. **電源コネクタ**
電源ケーブルを接続します。
9. **MASTER LEVEL**
マスターボリュームを調整します。
10. **BACK**
LCD ディスプレイと連動して表示を 1 つ前に戻すボタンです。
11. **NETWORK**
複数のスピーカーをネットワークに接続してコントロールする時に使用します。
12. **LINK**
スピーカーがネットワークに接続している時に点灯します。
13. **DATA**
ネットワークのデータが送受信されている時に点灯します。

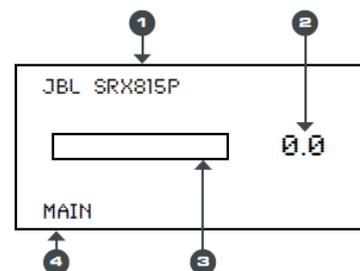
LCD ディスプレイ操作

バックパネルにある LCD ディスプレイからシステムの基本的な設定、及びプリセット、ネットワーク設定を行うことができます。

出力画面

本製品の電源を ON にすると、出力画面が表示されます。また、1 分以上操作がなかった場合、この画面に戻ります。さらに、背面パネルの「BACK」ボタンを 5 回押すことにより表示することもできます。

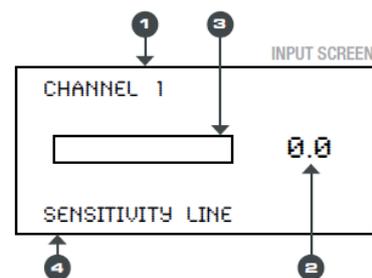
1. スピーカーモデル名
本製品のモデル名です。
2. マスター出力レベル
MASTER LEVEL つまみを回して、マスター出力レベル -100~+12dB の間で調整します。
3. メイン出力メーター
メイン出力の信号レベルが表示されます。
4. プリセット
適用されているプリセット名が表示されます。



入力画面 (SRX812P、SRX815P、SRX835)

出力画面の時、チャンネル・ゲインつまみを押すと、そのチャンネルの入力画面が表示されます。「BACK」ボタンを押すか、1 分待つことによりホーム画面に戻ります。

1. チャンネル名
選択されているチャンネルを表示します。
2. 入力ゲインレベル
チャンネル・ゲインつまみを回して入力ゲインを -80~+12dB の間で調整します。
3. チャンネル入力メーター
チャンネル入力の信号レベルが表示されます。
4. 入力感度設定
外部機器に応じて、入力信号感度を選択調整します。マイクの場合は MIC、民生用音楽プレイヤーや楽器は CONSUMER、業務用音楽プレイヤーやミキサーは LINE に設定してください。



MAIN MENU

出力画面の時、MASTER LEVEL つまみを押すと、MAIN MENU 画面が表示されます。
この画面からスピーカー設定、プリセット設定を行うことができます。

MAIN MENU		
PRESET	1	MAIN
AUTO DIM		OFF
AUTO SLEEP		ON
METERS		

PRESET

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して PRESET メニューをハイライト表示させ、つまみを押して PRESET メニューを選択します。さらに回して PRESET を選択し、最後につまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

MAIN MENU		
PRESET	1	MAIN
AUTO DIM		OFF
AUTO SLEEP		ON
METERS		

Auto Dim

1 分以上何も操作がなかった時、LCD ディスプレイのバックライトを消灯するかどうかを設定します。

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して AUTO DIM メニューをハイライト表示させ、つまみを押して AUTO DIM メニューを選択します。さらに回して ON/OFF を選択し、最後につまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

MAIN MENU		
PRESET	2	MONITOR
AUTO DIM		OFF
AUTO SLEEP		OFF
METERS		

Auto Sleep

一定時間スピーカーに信号が来なかった場合、自動的にスリープモードに入る機能を ON/OFF します。初期設定では、スリープモードに入るまでの時間は 30 分、復帰するのに必要な入力信号レベルは約-75dB です。

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して AUTO SLEEP メニューをハイライト表示させ、つまみを押して AUTO SLEEP メニューを選択します。さらに回して

ON/OFF を選択し、最後につまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

MAIN MENU		
PRESET	1	MAIN
AUTO DIM		OFF
AUTO SLEEP		<input type="checkbox"/> OFF
METERS		

METERS

1CH と 2CH の入力レベルを同時に表示します。

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して METERS メニューをハイライト表示させ、つまみを押して METERS メニューを選択します。最後につまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

INPUT METERS	
CH1	<input type="text"/>
CH2	<input type="text"/>

NETWORK MENU

ネットワーク設定を行うメニューです。IP アドレス、サブネット、HiQnet アドレスを設定できます。

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して NETWORK MENU をハイライト表示させ、つまみを押して NETWORK MENU を選択します。

NETWORK MENU	
<input type="text"/> IP	169.254.155.248
SUBNET	255.255.0.0
HIQNET	1
DHCP	ON

IP

IP アドレスを設定します。

NETWORK MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して IP メニューをハイライト表示させ、つまみを押して IP メニューを選択します。カーソルをアドレスの最上位桁に移動します。MASTER LEVEL つまみを回して数値を変更し、つまみを押すと次の桁に移動します。最下位桁まで設定が終了したら MASTER LEVEL つまみを押して確定します。

「BACK」ボタンを押して NETWORK MENU に戻ります。

SUBNET

サブネットを設定します。

ハイライト表示させ NETWORK MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して SUBNET メニューをハイライト表示させ、つまみを押して SUBNET メニューを選択します。カーソルがアドレスの最上位桁に移動します。MASTER LEVEL つまみを回して数値を変更し、つまみを押すと次の桁に移動します。最下位桁まで設定が終了したら MASTER LEVEL つまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して NETWORK MENU に戻ります。

NETWORK MENU	
IP	169.254.155.248
SUBNET	255.255.0.0
HIQNET	1
DHCP	ON

HIQNET

HiQnet アドレスを設定します。

NETWORK MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して HIQNET メニューをハイライト表示させ、つまみを押して HIQNET メニューを選択します。つまみを回して数値を変更し、つまみを押します。「BACK」ボタンを押して NETWORK MENU に戻ります。

NETWORK MENU	
IP	169.254.155.248
SUBNET	255.255.0.0
HIQNET	1
DHCP	ON

DHCP

IP アドレスやサブネットの設定に DHCP を使用するかどうかを選択します。IP アドレスやサブネットを手動で設定する場合は OFF にしてください。

NETWORK MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して DHCP メニューをハイライト表示させ、つまみを押して DHCP メニューを選択します。さらに回して ON/OFF を選択し、最後につまみを押して確定します。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

NETWORK MENU	
IP	169.254.155.248
SUBNET	255.255.0.0
HQNET	1
DHCP	ON

INFORMATION

MAIN MENU の時、MASTER LEVEL つまみを回して INFORMATION メニューをハイライト表示させ、つまみを押して INFORMATION メニューを選択します。

モデル番号、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスが表示されます。「BACK」ボタンを押して出力画面に戻ります。

INFORMATION	
MODEL	JBL SRX815P
VERSION	0.0.3.4
MAC	00:0A:40:10:05:C5

セットアップ

電源の接続とパワーON

1. 電源スイッチが OFF になっていることを確認します。
2. XLR、またはフォンケーブルを使用して外部機器を CH1/CH2 入力端子に接続します。
3. 付属の電源コードを本体リアパネルに差し込み、もう一方をコンセントに差し込みます。
4. 外部機器の電源を ON にします。
5. 本製品の電源スイッチを ON して、POWER LED が点灯することを確認します。

※電源スイッチを入れてから使用可能な状態になるまで約 5 秒ほど掛かります。

外部機器の入力レベル調整

1. つまみを左一杯に回して、CH1/CH2 の入力レベルと MASTER VOLUME レベルを最小にします。
2. 外部機器に応じて、入力信号感度を設定調整します。マイクの場合は MIC、民生用音楽プレイヤーや電子楽器は CONSUMER、業務用音楽プレイヤーやミキサーは LINE に設定してください。

出力調整

1. 用途に合わせてプリセットを選択します。
2. 外部機器の出力レベルを調整します。
3. **MASTER VOLUME** をゆっくり回して音量を調整します。

電源 OFF

1. **GAIN**、**MASTER VOLUME** を最小にします。
2. 音楽プレーヤー、電子機器、ミキサーなどの出力レベルを最小にします。
3. 本機電源スイッチを **OFF** にします。
4. 音楽プレーヤー、電子機器、ミキサーなどの電源を **OFF** にします。

プリセット

本製品には、用途や組み合わせにより、内蔵の信号処理機能を最適な値に設定したプリセットが用意されており、本体のみで簡単に呼び出すことができます。フルレンジモデルとサブウーファーでは用意されているプリセットが異なります。

フルレンジモデル(SRX812P、SRX815P、SRX835P)のみ

MAIN

SRX812P、SRX815P、SRX835P をサブウーファー無しでメインスピーカーとして使用する場合、選択します。

MONITOR

SRX812P、SRX815P をモニタースピーカーとして使用する時に選択します。

SPEECH

SRX812P、SRX815P、SRX835P をスピーチ用として使用する時に選択します。

SRX SUB

SRX812P、SRX815P、SRX835P をサブウーファーSRX818P、またはSRX828P と組み合わせて使用する時に選択します。SRX フルレンジシステムと SRX サブウーファーの特性が正確にマッチするように調整されます。

60Hz Sub、80Hz Sub、100Hz Sub、120Hz Sub

SRX812P、SRX815P、SRX835P を SRX818P、SRX828P 以外のサブウーファーと組み合わせて使用する時に選択します。使用するサブウーファーの仕様によりクロスオーバーポイントを選択します。

サブウーファー (SRX818P、SRX828P) のみ

SRX TOP

SRX818P、SRX828P を SRX812P、SRX815P、SRX835P と組み合わせて使用する時に選択します。SRX フルレンジシステムと SRX サブウーファーの特性が正確にマッチするように調整されます。

60Hz、80Hz、100Hz、120Hz

SRX818P、SRX828P を SRX812P、SRX815P、SRX835P 以外のフルレンジシステムと組み合わせて使用する時に選択します。使用するフルレンジシステムの仕様によりクロスオーバーポイントを選択します。

Cardioid 60、Cardioid 80

複数のサブウーファーを使用して単一指向性のサブウーファーシステムをセットアップする時、後ろ向きに設定するサブウーファーに設定します。SRX812P、SRX815P、SRX835P と組み合わせる時は、前向きのサブウーファーには SRX TOP、後ろ向きのサブウーファーには CARDIOID 80 を設定してください。

プリセット設定

SRX800 シリーズのスピーカーを組み合わせる、または他のスピーカーと組み合わせて使用する場合、下表に従って設定してください。

		SRX 812/815	SRX 835	Generic Top Box 60Hz Sub Crossover	Generic Top Box 80Hz Sub Crossover	Generic Top Box 100Hz Sub Crossover	Generic Top Box 120Hz Sub Crossover
SRX 818	Normal	SRX Sub SRX Top	SRX Sub SRX Top	60Hz HiPass 60Hz	80Hz HiPass 80Hz	100Hz HiPass 100Hz	120Hz HiPass 120Hz
	Cardioid 80Hz	SRX Sub Cardioid 80Hz*	SRX Sub Cardioid 80Hz*		80Hz HiPass Cardioid 80Hz*		
	Cardioid 60Hz		60Hz Sub Cardioid 60Hz*	60Hz HiPass Cardioid 60Hz*			
SRX 828	Normal	SRX Sub SRX Top	SRX Sub SRX Top	60Hz HiPass 60Hz	80Hz HiPass 80Hz	100Hz HiPass 100Hz	120Hz HiPass 120Hz
	Cardioid 80Hz	SRX Sub Cardioid 80Hz*	SRX Sub Cardioid 80Hz*		80Hz HiPass Cardioid 80Hz*		
	Cardioid 60Hz		60Hz Sub Cardioid 60Hz*	60Hz HiPass Cardioid 60Hz*			
Generic Subs	60Hz		60Hz Sub 60Hz LoPass				
	80Hz		80Hz Sub 80Hz LoPass				
	100Hz		100Hz Sub 100Hz LoPass				
	120Hz		120Hz Sub 120Hz LoPass				

高性能 DSP

概要

SRX800 シリーズに搭載されている DSP には、必要な機能が全て揃っていて、ユーザー設定可能。非常に使いやすく、精密なコントロールができます。JBL が準備したプリセットのみならず、ユーザーが様々な用途に合わせて、プリセットを作成し、呼び出しができます。

V5 互換 JBL チューニング

- 96Hz FIR フィルター
- LevelMax™ リミッター

ユーザー設定可能な DSP

- ユーザー設定が可能な 20 種類の PEQ (パラメトリック EQ) 搭載
- 最大 2 秒まで設定可能なディレイタイム
- シグナル・ジェネレーター：ピンクノイズ、ホワイトノイズ、サインカーブ

- 入力ミキシング可能
- アンプモニター：入力電圧、温度上昇、クリップ
- 50 のユーザープリセット

SRX Connect アプリケーション

基本的な設定は SRX Connect アプリケーション (iOS、Android) から行うことができます。次のホームページからダウンロードできます。

<http://www.jblpro.com/www/products/portable-market/srx800-series>

Audio Architect

より高度な設定やコントロールは Audio Architect (Windows PC) から行います。8 万人収容のスタジアムから小さいシアターまで、高品質なサウンドをコントロール、再生。素晴らしいライブを行うことができます。

次のホームページからダウンロードできます。

<http://www.jblpro.com/www/products/portable-market/srx800-series>

ネットワーク

SRX800 シリーズにはイーサネット・コネクタが搭載されていて、Audio Architect や SRX Connect アプリケーションからイーサネット経由でシステムをコントロールすることができます。

ネットワークに接続すると、LINK LED が点灯し、データの送受信により DATA LED が点灯します。



接続方法

1. ダイレクト接続

イーサネットケーブルをスピーカーのイーサネットコネクタに挿し込んで直接コントロールします。

2. 有線 LAN ネットワーク接続

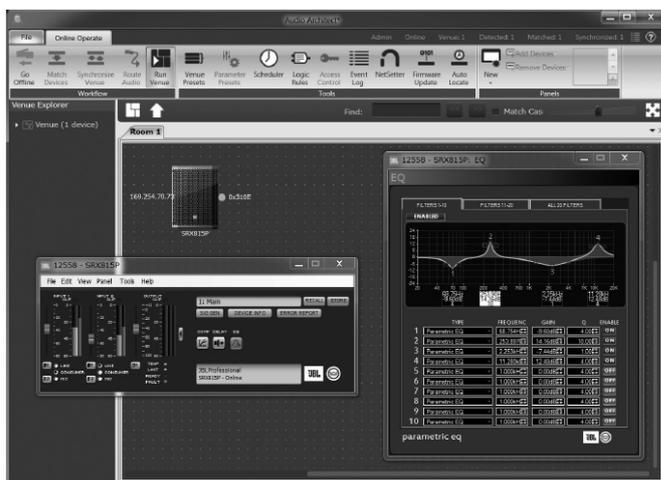
複数のスピーカーを有線 LAN ルーターに接続しコントロールします。

3. 無線 LAN ネットワーク接続

無線 LAN ネットワークに接続し、SRX Connect アプリケーション (iOS、Android) を使用して複数のスピーカーをコントロールします。

Audio Architect

高度な設定やコントロールは Audio Architect (Windows PC) から行うことができます。入力レベル、音量、位相反転、コンプレッサー、ディレイ、パラメトリック EQ の信号処理や、ミュート、シグナル・ジェネレーター、アンプモニターなどの運用に便利な機能があります。複数のスピーカーをネットワークに接続してシステム全体のコントロールや監視を行うことができます。また、無線 LAN ルーターを使用してワイヤレスコントロールも可能です。設定した値はプリセットとしてスピーカー内部に保存、呼び出しが可能です。

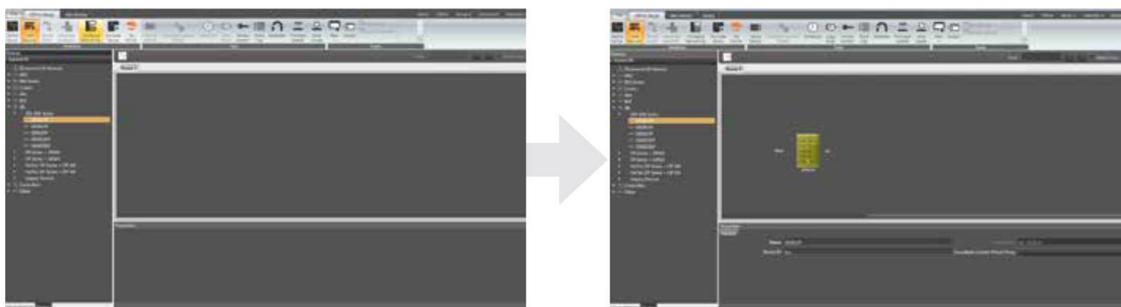


Audio Architect 実行環境 (バージョン 1.60 以降)

OS : Windows 7 (64 ビット版)、CPU : 64 ビット・デュアルコア@2.5GHz 以上、RAM : 8GB 以上

最初、ネットワークに接続した後に、スピーカーが画面に表示されない場合があります。殆どの場合、HiQnet アドレスが初期設定のままになっていることが原因です。初めてネットワークに接続する場合、予め HiQnet NetSetter を使用して HiQnet アドレスを設定してください。NetSetter は下記のホームページからダウンロードできます。

<http://www.jblpro.com/www/products/portable-market/srx800-series>



1. スピーカーがネットワークに接続されると画面左のウィンドウに表示されます。
2. 使用するスピーカーをドラッグ&ドロップで画面右ウィンドウに表示させます。



3. 表示されたスピーカーをダブルクリックして設定ウィンドウを開きます。
4. 設定する DSP パラメーターをダブルクリックします。

SRX Connect アプリケーション

基本的な設定は SRX Connect アプリケーション (iOS、Android) から行うことができます。端末からワイヤレスで、音量、コンプレッサー、ディレイ、パラメトリック EQ の信号処理や、ミュート、シグナル・ジェネレーターなど運用に便利な機能があります。複数のスピーカーをネットワークに接続してシステム全体のコントロールや監視を行うことができます。設定した値はプリセットとしてスピーカー内部に保存、呼び出しが可能です。

SRX Connect アプリケーションの実行環境

iPad : iOS7.0 以降

Android 端末 : Android OS 2.3 以降



ネットワークに接続されたスピーカーを画面からドラッグ&ドロップして使用可能な状態にします。



各パラメーターの設定が画面からできます。スピーカーグループを選択して DSP の設定を行い、システムを調整できます。

故障かな？と思ったら

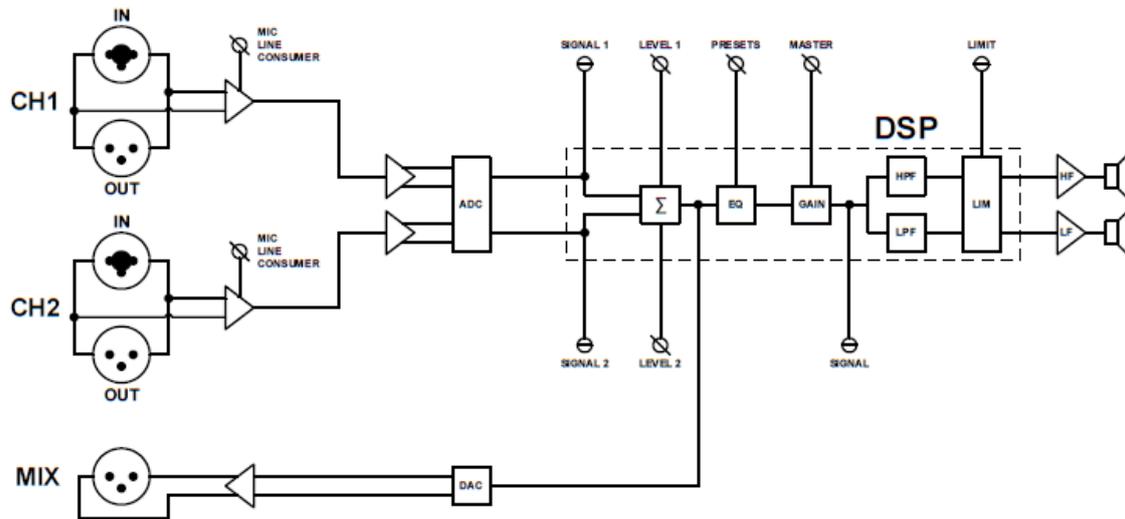
症状	原因	対策
電源が ON にならない	電源コードがコンセントに差し込まれていない	電源コードをコンセントに差し込んでください
	電源スイッチが ON になっていない	電源スイッチを ON にして POWER LED が点灯することを確認してください
	電源コードに不具合がある	正常な電源コードに交換してください
	コンセントの電圧が AC100V 以下になっている	コンセントの電圧が AC100V になっていることを確認してください

電源が ON になっているのに音が出ない、または非常に小さい	音源から信号が送られていない	音源の VU メーターを確認してください。 テープや CD が再生されているか確認してください ヘッドホンを繋いで音源から音が出ているか確認してください
	入力信号レベルが小さすぎる	音源のマスターボリュームやゲインを上げてください
	スピーカーのマスターボリュームやゲインが小さすぎる	スピーカーのマスターボリュームやゲインを上げてください
	機器の接続に問題がある	機器を正しく接続してください
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換してください
入りにマイクを繋いでも音が出ない	ファンタム電源が必要なマイクを接続している	本製品はファンタム電源の供給機能はありません。次のマイクを使用してください ・ダイナミックマイク ・電池駆動のコンデンサーマイク ・外部ファンタム電源を使用したコンデンサーマイク
	MIC/CONSUMER/LINE 設定が LINE になっている	設定を MIC に切り替えてください
音が歪む。PEAK LED が常に点灯している	入力信号レベルが大きすぎる	音源の出力信号レベルを下げてください
	スピーカーのマスターボリュームやゲインが大きすぎる	スピーカーのマスターボリュームやゲインを下げてください
ノイズが発生する。ボリュームは十分小さい。LIMIT LED は消灯している	ミキサー側が過負荷になっている	ミキサー側の入力ゲインやフェーダーを調整してください
	MIC/CONSUMER/LINE 設定が MIC になっている	設定を LINE に切り替えてください
スピーカーからノイズが出る	音源からノイズが出ている	音源を外して、ノイズを出している音源を探してください
ミキサーのレベルコントロールを動かすとハムノイズが変化する	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換してください
	アースが正しく接続されていない	アース接続を確認する

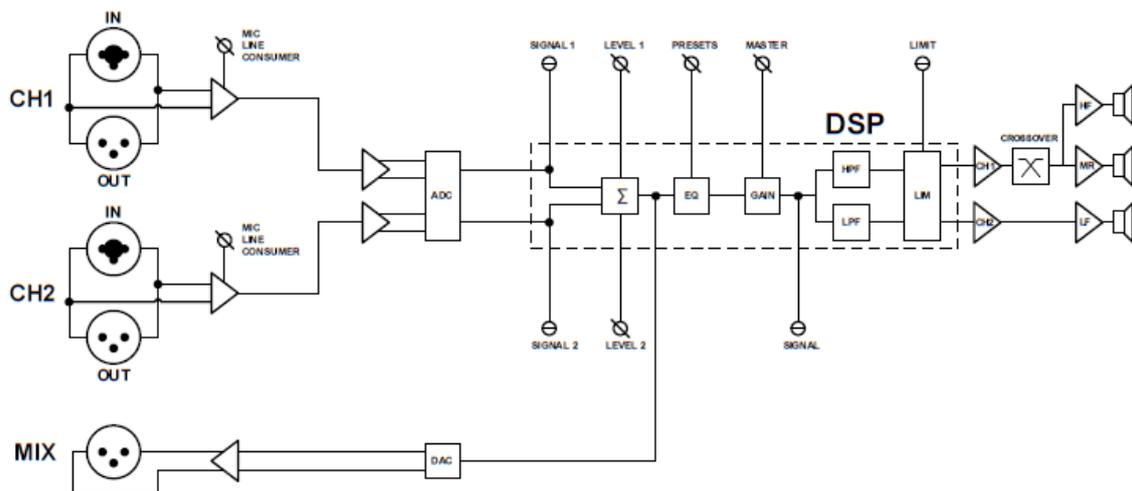
		信号ケーブルを電源コードや照明ケーブルから離してください
	長いアンバランス・ケーブルを使用している	バランス出力がある時は、それを使用してください。 無い場合は DI ボックスを使用してアンバランス接続をバランス接続に変えてください
	ゲインのバランスが悪い	入力ゲインを下げて出力ゲインを上げる

ブロック・ダイアグラム

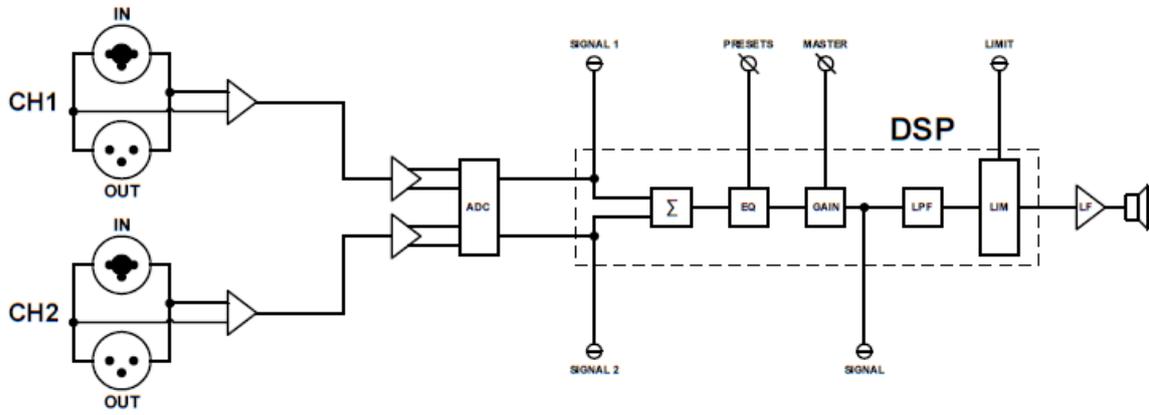
SRX812P、SRX815P



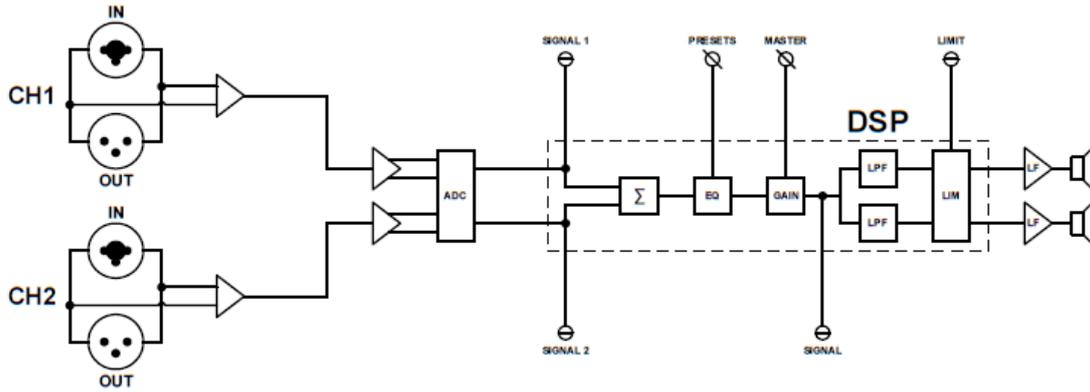
SRX835P



SRX818SP



SRX828SP





※この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは、その会社の商標登録です。
また、掲載されている図、写真などの著作権はその会社にあります。